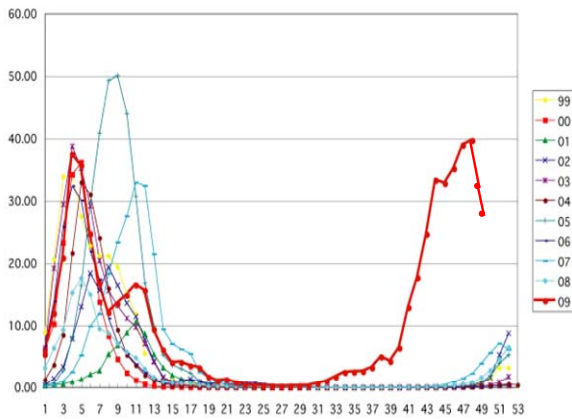




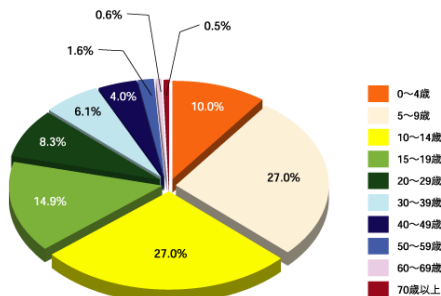
新型インフルエンザA(H1N1) 2009年から2010年へ

◎新型インフルエンザの流行状況◎



2009年4月に、メキシコで始まった新型インフルエンザA(H1N1)の世界的流行が、日本でも5月に関西地区での小規模な流行を経て、9月には全国的な大規模な流行となりました。そして、12月になって、ようやくピークを過ぎました(上図)。大阪では患者数がすでにピーク時の約半分に減少しました。この間、日本では1,500万人の患者が罹患し、そのうち50%以上を5歳から14歳までの小児が占めていました(下図)。また、最近感染者の20%は不顕性感染である可能性を指摘する研究も報告され、これらの情報を合わせますと、理論的には全国の小学校から中学校までの児童、生徒の80%程度がすでに新型インフルエンザに罹患した可能性があります。

図4. インフルエンザ推計受診患者数(暫定値)の年齢群別割合(2009年第28~49週)



第2波の襲来が心配されていますが、多くの小児がすでに罹患しているため、第2波は第1波ほど大きな流行にはならない可能性が考えられます。

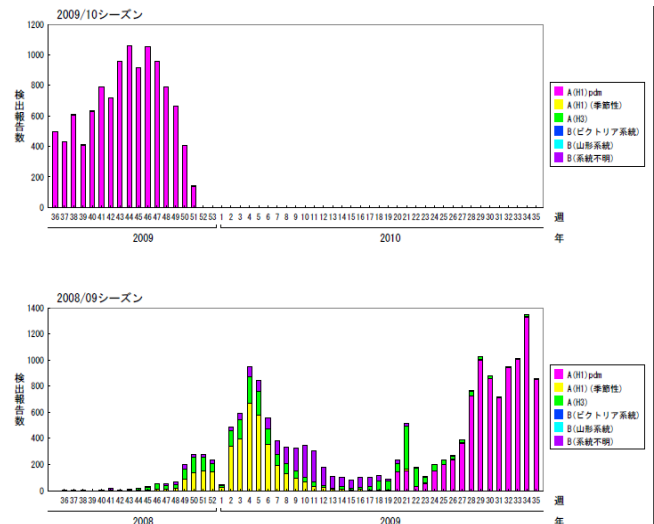
一方、罹患者の年齢が上ると重症化しやすいので、医療機関としては第2波への注意が必

要です。

最近、新型インフルエンザのタミフル耐性株の報告も増えてきています。ピークを越えたとは言え、この点からも今後の動向から目が離せません。

◎これからの動向予測◎

12月になり、いよいよ季節性インフルエンザが流行する本格的なインフルエンザシーズンとなりました。しかし、下図に示しますように、例年であれば、すでに季節性インフルエンザが分離される時期になっているにもかかわらず、新型インフルエンザのみの分離される状況が続



いています。

南半球においてみられたように、今シーズンは、ほとんど新型インフルエンザに置き換わり、季節性インフルエンザの流行は少ない可能性も指摘されており、興味深い現象です。

今後の動向についても、マンスリーで順次お知らせいたしますのでご注目ください。

◎ワクチン接種◎

当院では、これまで同様1月中も通院および入院中の患者さんに対するワクチン接種を外来棟3階のワクチンブースで続けます。ワクチン対象者で接種を希望される患者さんがいらっしやいましたら、主治医の先生はワクチン接種の予約をお願いいたします。

